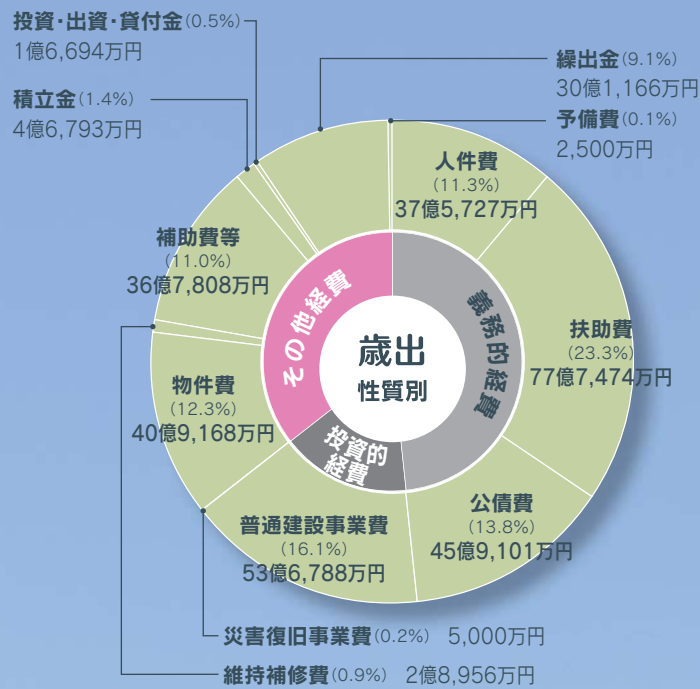




令和5年度一般会計

332億 7,175万円

前年度比較…1億5,091万円の増

歳出

歳出のポイント

- 性質別** 人件費38億円、扶助費78億円、公債費46億円で構成する義務的経費が歳出全体の48%を占めています。
- 目的別** 児童・障がい福祉などを構成する民生費が116億円で最も多く、続いて中学校の建て替え事業を含む教育費が53億円、市債(借金)の返済金である公債費が46億円と上位を占めています。

歳出の状況

- 民生費** 障がい福祉サービス等給付費や私立保育所運営費負担金などで増
- 教育費** 松橋中学校校舎棟改築工事や小川中学校外構等整備工事などで増
- 総務費** 本庁舎大規模改修工事が完了するなどで減
- 商工費** 新型コロナウイルス対策中小企業特別融資資金利子補給補助金の減額などで減

2月14日から3月14日にかけて、第1回市議会定例会が開かれました。守田憲史市長が示した今年度の施政方針と可決成立した予算の概要をお知らせします。

図 施政方針 市長政策課 ☎32-1803
予算 財政課 ☎32-1748

令和5年度

施政方針・当初予算



UKINISUM(ウキニスム)とは宇城市への定住を促進するキャッチフレーズで、主義や流儀、傾向などの"ISM"と"宇城に住む"を合わせた造語。この言葉を使って、市の魅力や住みやすさをPRしている。

歳入

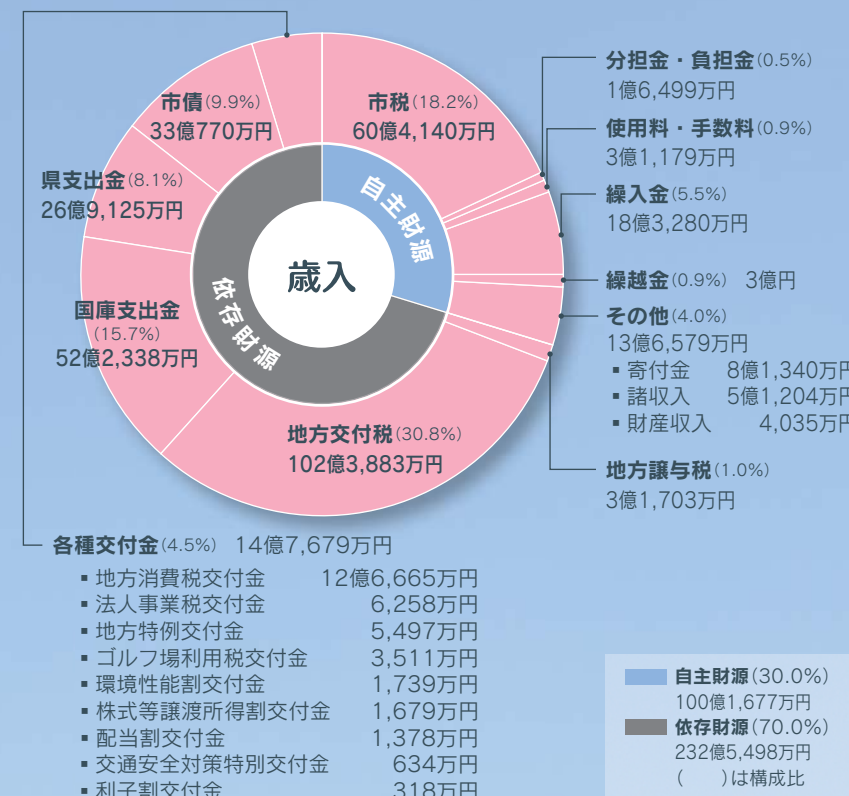
歳入のポイント

主なものは、「自主財源」の市税が約60億円、「依存財源」の地方交付税102億円、国庫・県支出金79億円、市債33億円。

自主財源は歳入全体の3割にとどまり、国や県の動向に左右されやすい財政構造となっています。

歳入の状況

- 地方交付税** 普通交付税に算入される公債費の増額などで増
- 国庫支出金** 前年度の新型コロナウイルスワクチン接種対策費国庫負担金がなくなり減
- 繰入金** 歳入の不足が生じているため、市の貯金である財政調整基金を17億3,965万円取り崩し、基金残高は72億6,135万円になる見込み
- 寄附金** ふるさと応援寄附金などで増



施政方針の概要

昨年は、新型コロナや物価高騰の経済対策として市独自に2度の商品券を発行しました。また、熊本地震からの復興の総仕上げとして本庁舎の改修工事が完了。防災機能の強化、証明書発行や公金の支払いをデジタル化し、より市民の利便性が高い庁舎へと生まれ変わりました。

本年度も、市の理念を象徴するフレーズ「UKINISUM」の下、市民の皆さまが「住んで良かった」と感じられるよう、市民目線で事業を展開。「子育てするなら宇城市」と実感できる施策や、宇城市に「集う」「暮らす」「活躍する」関係人口の創出に取り組みます。

さらに、世界最大手の半導体企業「TSMC」の新工場稼働を見据え、半導体関連のみならず、幅広い企業誘致に取り組み、新たな雇用の創出から人口流出の抑止、世帯や人口の増加といった好循環を目指します。

選択と集中の予算編成と未来への投資

本年度の収支見通しは、歳入面

で人口減少や新型コロナの影響で市税が減収する見込みです。歳出面では、社会保障関係費の増大や小中学校施設の改築、道路・橋梁などの長寿命化や維持管理のため、前年に引き続き大型の予算となりましたが、国庫支出金や基金の有効活用、財政的に有利な市債などを最大限に活用した予算を編成しました。今後も財源の確保と無駄のない予算執行に努め、将来世代に負担を先送りにしない健全な財政運営に取り組んでいきます。

限られた財源の中で、選択と集中を念頭に置き、国営緊急農地再編整備や市道大野川リバーサイドロード線の整備、松橋駅西・小川駅西の開発など、重点施策と位置付けた事業に注力。また、デジタル技術や民間活力を活用した行財政改革に引き続き取り組み、給食費の無料化、子ども医療費助成の対象年齢拡大など、市の将来を担う子どもたちを育む分野には重点的に投資していきます。

目指すのは、「住んで良かった」「住みたい」と思えるまち。皆さまと共に取り組みを進めます。